



2027年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

2026年8月7日

株式会社栄電子

東証スタンダード市場 証券コード7567



2027年3月期 第1四半期 業績概要



- ・ 主要顧客の需要回復等により受注高が前年同期比+130.4%と大幅に増加し、売上高も同+58.6%と大きく伸長した結果、前年同期比で大幅な増収増益となった。
- ・ 増収効果に加え、高付加価値商材の受注増が貢献したことで粗利率が改善し、営業利益は139百万円（前年同期比+705.0%）と大幅な増益を達成。

百万円				
科目	2026年3月期_1Q	2027年3月期_1Q	前年同期比	
			増減額	増減率(%)
売上高	1,754	2,781	+1,027	+58.6
営業利益	17	139	+121	+705.0
経常利益	29	154	+125	+431.7
当期純利益 ※	18	98	+80	+442.7
1株当たり当期 純利益(円)	3.57	19.39	-	-
受注高	1,525	3,515	+1,990	+130.4

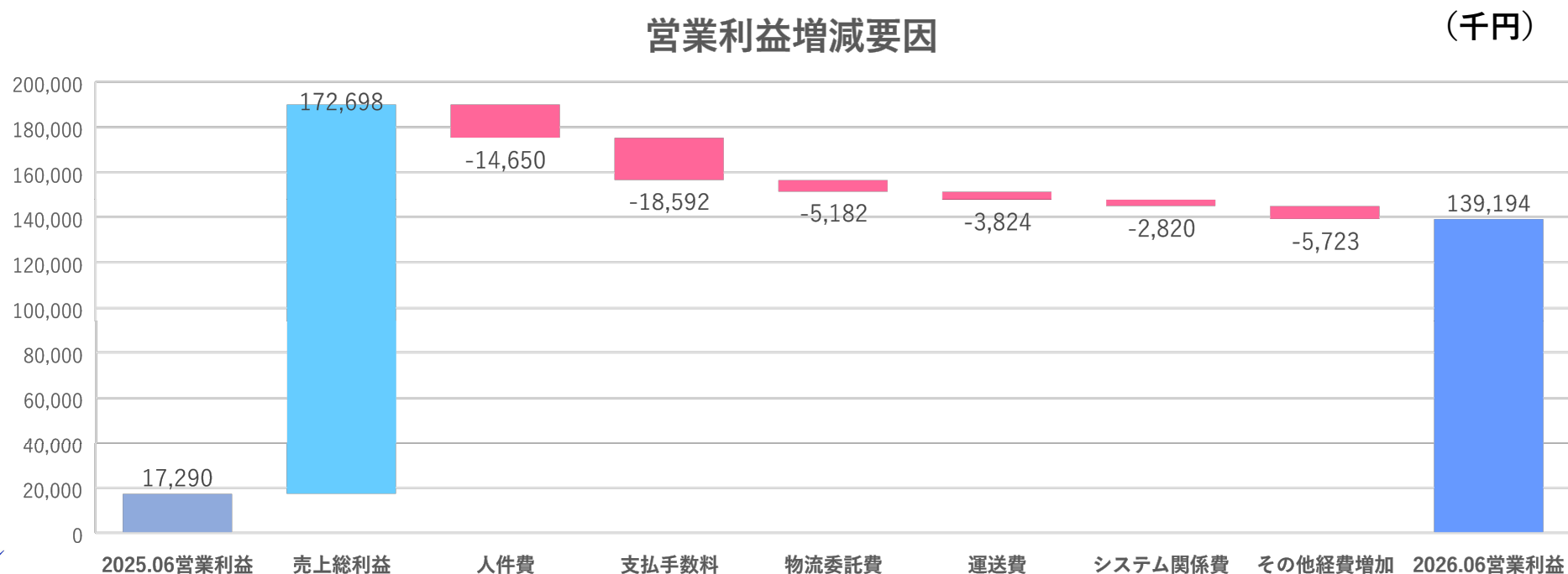


※親会社株主に帰属する当期純利益

営業利益 前年同期比 増減要因



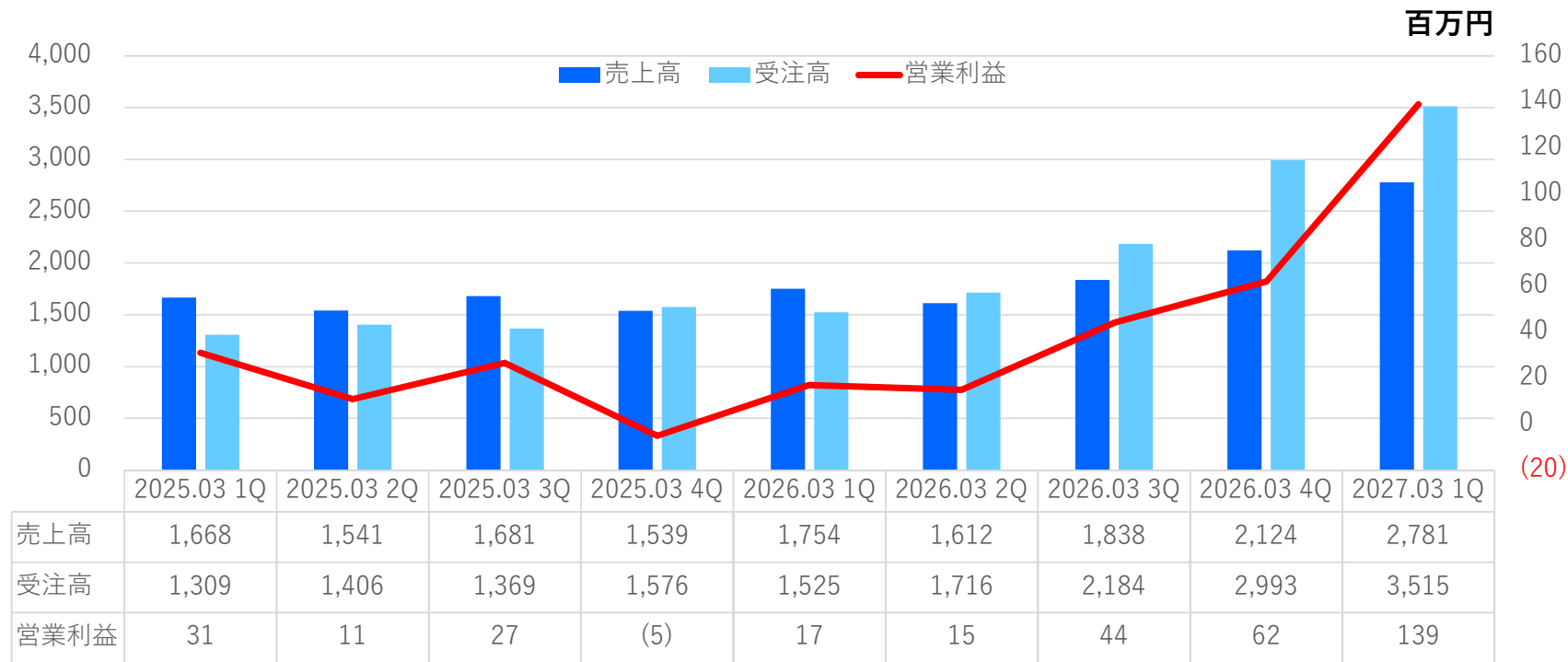
- ・売上総利益は前年同期比172百万円（61.3%）増加。経費増を吸収し、営業利益は前年同期比121百万円（705.0%）の増加となった。
- ・販売費及び一般管理費は前年同期比50百万円（19.2%）増加。人件費は採用等により前年同期比14百万円（9.4%）増加、一般管理費は外部物流活用などにより前年同期比36百万円（33.4%）の増加となった。



四半期別 売上高・受注高、営業利益トレンド



- ・ 売上高は直近四半期及び前年同四半期を上回り、順調に拡大。
- ・ 受注高は直近四半期及び前年同四半期を大幅に上回り、高い伸長を維持。
- ・ 営業利益は直近四半期及び前年同四半期から拡大し、大幅な増益を更新。



商品別 売上高・受注高推移



(百万円)

	2026年3月期				2027年3月期	前年同期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	(増減額)	(増減率%)
売上高	1,754	1,612	1,838	2,124	2,781	+1,027	+58.6
(商品別内訳)							
一般電子部品	1,043	990	1,142	1,296	1,746	+702	+67.3
電 源	359	274	322	387	476	+116	+32.4
電子デバイス	52	44	48	70	75	+23	+44.3
I O T 機 器	30	65	91	102	88	+58	+193.7
セ ン サ ー	22	17	19	23	32	+9	+41.5
そ の 他	245	220	214	243	362	+117	+47.6
受注高	1,525	1,716	2,184	2,993	3,515	+1,990	+130.4
(商品別内訳)							
一般電子部品	995	1,072	1,368	1,854	2,273	+1,278	+128.5
電 源	225	237	350	527	594	+369	+164.1
電子デバイス	19	45	52	94	139	+120	+619.3
I O T 機 器	81	97	93	136	68	-12	-15.3
セ ン サ ー	13	15	20	72	20	+7	+53.5
そ の 他	191	248	299	307	418	+227	+118.8



財政状態



百万円

科目	2026年3月期末	2027年3月期_1Q末	前期末比較	
			増減額	増減率(%)
流動資産	4,378	4,847	+469	+10.7
固定資産	2,982	3,479	+496	+16.7
負債合計	2,542	3,133	+591	+23.3
株主資本	4,132	4,175	+42	+1.0
純資産	4,818	5,193	+375	+7.8
総資産	7,360	8,327	+966	+13.1
自己資本比率(%)	65.5	62.4	—	—
1株当たり純資産 (円)	948.67	1,022.57	—	—
期(四半期)末株価	475	525	—	—
PBR	0.50	0.51	—	—

・ 流動資産
売上債権の増加381百万、
商品の増加198百万、
現預金の減少111百万

・ 固定資産
投資有価証券の増加
485百万

・ 流動負債
仕入債務の増加386百万、
賞与引当金の増加23百万

・ 固定負債
繰延税金負債の増加

今期の見通し

市場動向



AIインフラ需要の拡大

AIサーバー向け需要拡大を背景に、
関連市場は成長基調で推移



メモリ需給バランスのタイト化

供給ひっ迫懸念を背景に、
各種メモリ搭載製品向け需要が増加



戦略的な先行確保の動き

諸経費の上昇等を見据えた先行調達の
動きが一部継続

留意事項

●地政学リスク

中東情勢等の供給・物流への影響

●部材需給変動

部材供給バランスによる納期動向

●コスト上昇

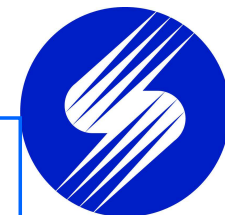
原材料、労務費、輸送費等の上昇

●投資環境

建設コスト上昇やインフラ制約等
による投資動向への影響

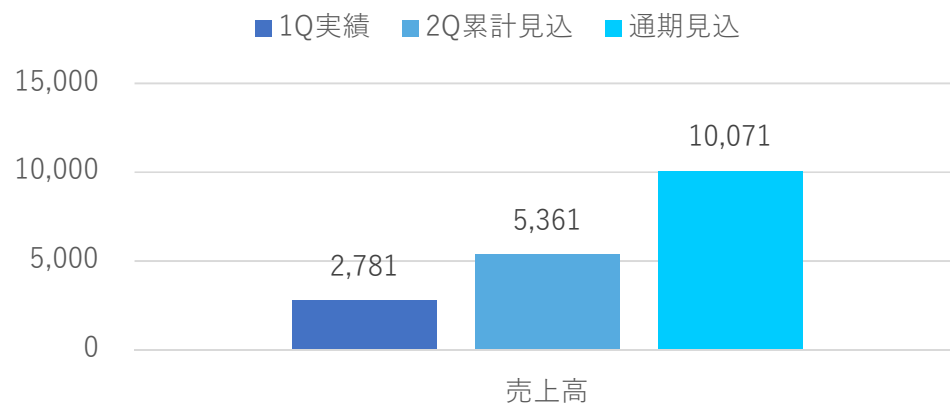


今期の見通し:業績予想・配当予想



- ・ AI関連需要拡大等を背景とした半導体製造装置関連市場の成長継続を前提に、足元の受注環境および顧客在庫動向等を踏まえ、2027年3月期は増収増益を見込む。
- ・ 2027年3月期の配当は、普通配当11円に記念配当2円を加え、年間13円を予定。

2027年3月期 連結業績予想 (百万円)	科目	第2四半期	通期	配当予想 1株あたり13円 (内訳) 普通配当 11円 記念配当 2円
	売上高	5,361	10,071	
	経常利益	257	351	
	当期純利益	151	203	
	1株当たり純利益	29.81	40.03	



※5月14日公表の第2四半期
(中間期) および通期業績予
想を修正





・台湾現地法人「台榮電子股份有限公司」の本格稼働

台湾現地法人「台榮電子股份有限公司」において、現地営業人員1名を新たに採用し、本格的な営業活動を開始いたしました。アジア圏における営業体制の強化を進める中、国内既存顧客からも新たなメーカーに関する問い合わせをいただいております。商材提案の機会が広がっております。今後も現地ネットワークを活用し、海外市場の開拓ならびに顧客ニーズに応じた商材提案を推進することで、事業基盤の強化に努めてまいります。

・展示会への積極出展と既存メーカーとの戦略的連携

新規顧客の開拓と認知度向上に向け、7月開催の「ものづくりワールド M-Tech機械要素技術展〔東京〕2026」を皮切りに、今年度も複数の展示会へ積極的に出展してまいります。あわせて、既存の仕入先・メーカーとも連携した戦略的なプロモーション活動を展開中です。リアルな接点を軸とした販路拡大とパートナーシップの深耕により、さらなる業績拡大を目指します。



計画期間：2026年3月期～2028年3月期（3ヶ年）

基本方針：資本コストや株価を意識した経営により企業価値を高める。

目標：2028年3月期

（現状）

ROE・ROIC：未達成
PBR：未達成

2026年3月期実績

連結売上高：73億

2027年3月期見込

連結売上高：100億

連結売上高：150億

ROE/ROIC：8%

PBR：1倍以上

- ・収益力：特定顧客依存が高い
- ・資本効率：株主還元の実効性、資産効率、業務インフラに改善余地
- ・IR：企業価値の伝達力が不十分

中期経営計画



期間	(2026年3月期)	(2027年3月期)	(2028年3月期)
フェーズ	1.基盤構築	2.回復・拡大	3.定着・最大化
位置づけ	成長の基盤を構築する	収益・売上拡大への転換	成長の定着と成果の最大化
収益力向上	・ 人的資本投資への投資実行 ⇒外部から高い評価を受けた階層別研修の実施、将来の価値を支える人材の土台作り ・ 海外展開強化 ⇒台湾に現地法人設立	・ 高付加価値商材の提案・販売を拡大 ・ 台湾拠点の稼働開始と新商材の発掘・拡販加速	
資本効率向上	・ 株主還元の実効性向上 ⇒普通配当を11円に増額 ・ 資産効率、業務インフラの改善 ⇒基幹システム改修	・ 株主資本配当率の向上 ・ 組織全体の生産性向上	
IR・Marcom拡充	・ IR・Marcomチーム主導による積極的な情報発信 ⇒PR TIMESによる情報発信 8 件 ・ 発信チャネルの拡充と認知向上 ⇒展示会開催 3 回	・ 引き続きIR・Marcomチーム主導による積極的な情報発信及び展示会等顧客接点機会創出	

フェーズ1の
成果を収益に転換



栄電子KPI: 企業活動の成果を「人的資本」と「物的資本」という経営資源との関係性の中で捉え、より効率的かつ持続可能な企業成長を目指す。

分類	実績(成果)に関する指標	人的資本に関する指標	物的資本に関する指標
	当社の事業活動の成果を示すもの	従業員一人ひとりの能力開発と企業への貢献を促すための投資と状況を示す	設備や資産の効率的な活用によって環境負荷を低減することを示す
指標	①受注高／人 ②売上高／人 ③営業利益額／人 ④重点顧客受注高 ⑤重点商品受注高	⑥人事評価制度改定 ⑦健康経営認証取得 ⑧採用実績人数 ⑨社員研修費／人 ⑩研修実施時間／人 ⑪社員定着率	⑫システム改修 ⑬不具合発生数 ⑭システム稼働率 ⑮在庫回転率 ⑯不動在庫金額 ⑰システム投資額 ⑱遊休不動産額

栄電子KPI



(百万円)

項目	2026年3月期				2027年3月期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
従業員数	93	92	91	91	94
1人当たり売上高	19	36	57	80	30
1人当たり受注高	16	35	59	92	37
1人当たり営業利益	0.2	0.3	0.8	1.5	1.5

* 従業員数には、パート・アルバイトを含む。

* 金額は、各四半期の累計額。

- ・ 当第1四半期の営業利益率は5.0%と前年同四半期1.0%から4ポイント増加。
- ・ 経費増加要因は、主として人材確保の推進、外部物流の活用拡大、展示会・WEB広告等販促活動の強化による。

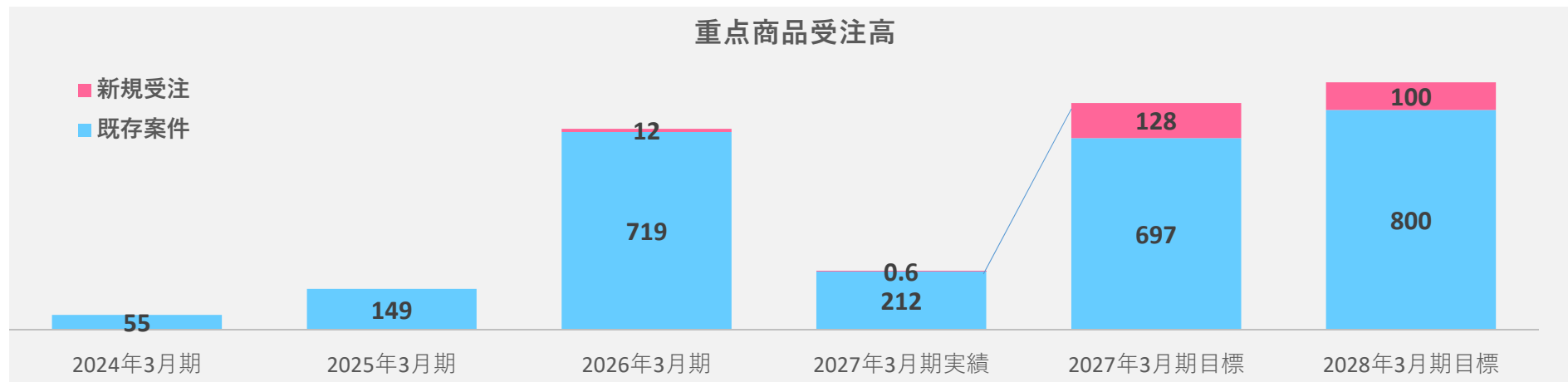
栄電子KPI



(百万円)

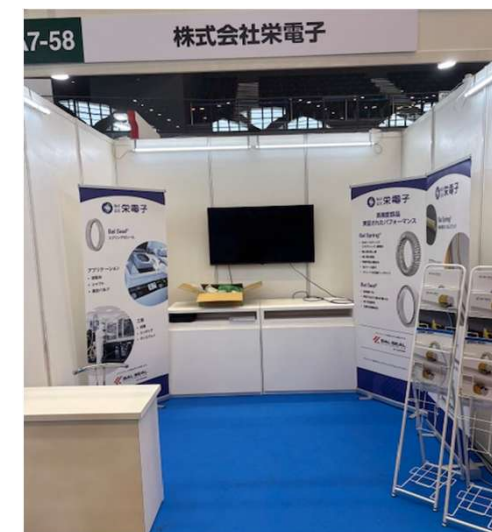
重点商品受注高

■ 新規受注
■ 既存案件



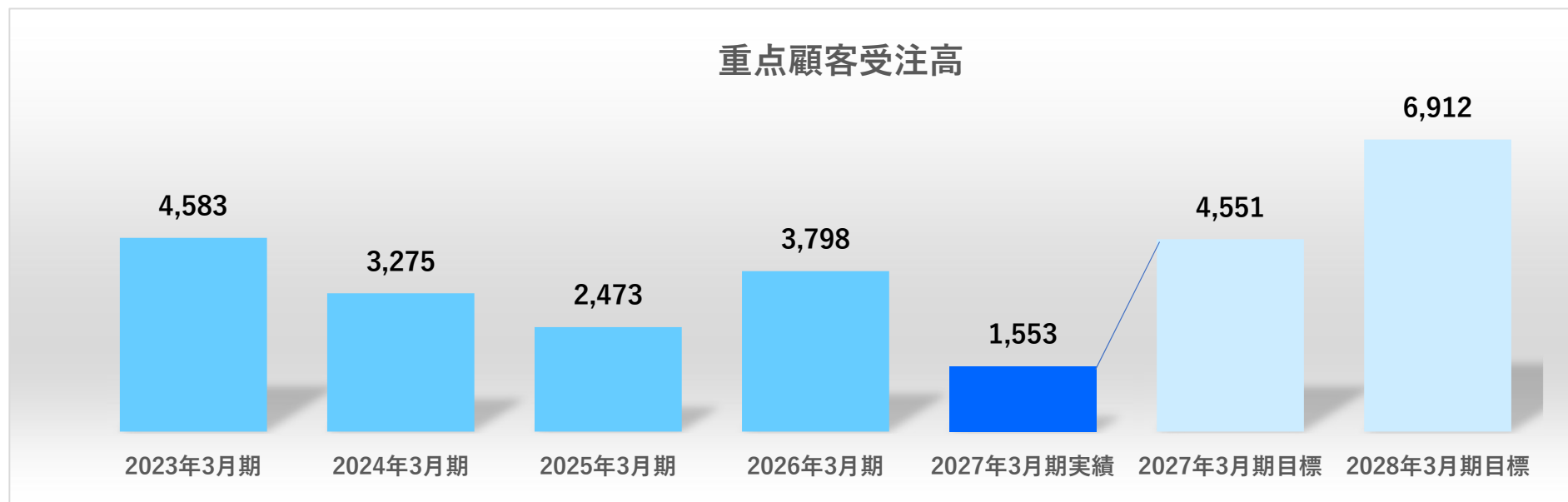
- ・ 特定商品群の事業貢献度を測っている。
- ・ 2024年3月期に新規代理店となった海外メーカー製品を対象とし、受注拡大及び新規案件獲得に取り組んでいる。
- ・ 2027年3月期計画に対し、第1四半期は既存案件で30.5%の進捗、新規案件は0.5%の進捗。

- ・ 新規案件獲得・拡販体制強化に向け、人材採用、訪問活動強化
- ・ 2027年3月期も展示会他Marcom活動継続





(百万円)



- ・ 重点商品の拡販及び新規案件獲得に向けた注力先、並びに各種重点施策の対象先について受注実績及び中期目標に対する進捗を可視化。
- ・ 2027年3月期計画に対し、第1四半期は34.1%の進捗。



将来の見通しに関する記述等についてのご注意

本資料は、当社の経営方針・経営情報等をよりよくご理解いただくことを目的として作成したものであり、いかなる投資勧誘をも目的としたものではありません。

本資料に記載されている当社及び当社グループについての予測、期待、計画等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提条件に基づいており、様々な要因によって実際に生じる結果と大きく異なる可能性があります。